

選択したシラバスのプレビュー画面です

平成27 年度

[↑ 操作ボタン](#)

講義科目名称 : ボランティア論

授業コード : 43019

英文科目名称 : ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	講義	2単位	
曜日時限			
前期: 木曜3限			
配当学科・学年			
人間1			
担当教員			
岡島 克樹			

授業テーマ	近年、活発化するボランティア活動について考えながら、人間の行動と社会の動向に関する理解を深める。
講義概要	日本では、日本社会の長期的・構造的な変化とともに、震災などの短期的な要因をきっかけとして、ボランティア活動が活発化してきている。また、2000年代以降、「新しい公共」という言葉が時代を表す1つのキーワードになり、サードセクターと呼ばれる社会の一部分が一層注目を浴びるようになってきている。さらに、個人の観点からも、生きがいや人とのつながりを求めてより多くの人がボランティア活動に従事するようになってきている。そこで、本講では、(1) ボランティアを戦後日本の歴史の中に位置づけ、その定義・背景となっている思想・主要分野・担い手等における歴史の変遷を考えるとともに、(2) 個人がどのようにしてボランティアに従事するのかその心理的なメカニズムを学ぶ。また、(3) ボランティアが社会を構成する組織、たとえば行政や学校、企業とのあいだでどのような関係を持つようになってきているのかを考えることをとおして、全体として、人間の行動と社会の動向についての理解を深める。
到達目標	(1) ボランティアという概念がどのように変化してきたのかが理解できる。 (2) 最近のボランティア振興策の傾向とその背景について理解できる。
評価方法	(1) 期末テスト(70%) (2) 外部講師による講義の際に課すレポート(2~3本)(30%)
評価基準	(1) ボランティアという概念を構成する要素をあげ、それがどのように変化してきたのか、説明できる。 (2) ボランティアと社会一般の関係について、説明できる。 (3) 1990年代以降、行政や学校がボランティアをどのように振興してきたのか、その背景を含めて説明できる。
テキスト	なし
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	外部講師をお招きして、ボランティアの現場についてお話いただく機会を2~3回程度、設ける予定である。しかし、実際にいつどの回に外部講師が来学しレクチャーされるのかは、外部講師の先生方のご予定にもよる。分かり次第、なるべく早急に授業のなかで告知するのでお知らせください。
準備学習	予習として資料をコピーして配布することがある。事前に目とおしてから授業に臨むようにしてください。
オフィスアワー等	授業終了後に質問に対応する。
備考・メッセージ	

授業計画						
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標		
1	講義	岡島	オリエンテーション・本講義担当者のボランティア経験とその意味	本講義全体の学習到達目標やスケジュール、ルールが理解できる		
2	講義	岡島	ボランティアとは何か(その1)と題するレクチャー	ボランティア概念を構成する主要5要素が理解できる		
3	講義	岡島	ボランティアとは何か(その2)と題するレクチャー	ボランティア概念を構成する主要5要素以外の要素について理解できる		
4	講義	岡島	外部講師(福祉系のボランティア団体主宰者)による講義	受講学生の将来あるいは現在の生活に密接に関連する分野においてどのようなボランティア活動がおこなわれ、どのような役割をはたしているのか、簡潔に説明することができる。		
5	講義	岡島	世界のボランティア史に関するレクチャー	ボランティア概念の変化を社会の動向とあわせて理解できる		
6	講義	岡島	日本のボランティア史一戦前・戦後直後の動向に関するレクチャー	ボランティア概念の変化を社会の動向とあわせて理解できる		
7	講義	岡島	日本のボランティア史一1970年代のパラダイム転換を軸にと題するレクチャー	ボランティア概念の変化を社会の動向とあわせて理解できる		

8	講義	岡島	日本のボランティア史—ポスト戦後時代の動向を軸にと題するレクチャー	ボランティア概念の変化を社会の動向とあわせて理解できる		
9	講義	岡島	外部講師（子育て支援系のボランティア団体主宰者）による講義	受講学生の将来あるいは現在の生活に密接に関連する分野においてどのようなボランティア活動がおこなわれ、どのような役割をはたしているのか、簡潔に説明することができる。		
10	講義	岡島	ボランティア振興策の変化とその背景—行政を中心にと題するレクチャー	最近のボランティアをめぐる社会の動きが理解できる		
11	講義	岡島	ボランティア振興策の変化とその背景—学校を中心にと題するレクチャー	最近のボランティアをめぐる社会の動きが理解できる		
12	講義	岡島	外部講師（多文化共生・国際交流系のボランティア団体主催者）による講義	受講学生の将来あるいは現在の生活に密接に関連する分野においてどのようなボランティア活動がおこなわれ、どのような役割をはたしているのか、簡潔に説明することができる。		
13	講義	岡島	ボランティアを求める人間の心理に関するレクチャー	社会的なアプローチではなく、心理的なアプローチからボランティアという人間の行動を理解することができる		
14	講義	岡島	ボランティアを始めるにあたっての留意事項に関するレクチャー	どのようにボランティアを探せばいいのか、何に留意して決めるとよいかを理解できる		
15	講義	岡島	総括（学習到達目標の確認ならびに補足的説明）	本講義全体の学習到達目標がどの程度達成できているのか、自分自身で理解することができる。 今後の大学生活のなかでどのようにボランティア活動をおこない、社会に対する貢献と自己の成長につなげていくのか、計画立てを行うことができる。		

授業方法					
	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)

閉じる

選択したシラバスのプレビュー画面です

平成27 年度

[↑ 操作ボタン](#)

講義科目名称 : 国際協力論

授業コード : 52036

英文科目名称 : ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
後期	講義	2単位	
曜日時限			
後期: 金曜2限			
配当学科・学年			
人社2			
担当教員			
岡島 克樹			

授業テーマ	国際協力とは何かを学ぶ
講義概要	前期で、世界では何が起こっているのか、日本と世界、とりわけ途上国と呼ばれてきた国々とはどのようにつながってきたのかを考えたあと、後期では、日本と途上国とのつながりのなかから、国際協力をとりあげ、その概要について学ぶ。より具体的には、国際協力の定義やそれを行う動機や目的、政府やN G O（非政府組織）が行う国際協力活動のそれぞれの特徴、国際協力事業の企画・評価について学ぶ機会を提供する。
到達目標	国際協力とは何かについて、その概要が理解できる。
評価方法	(1) 期末テスト (70%) (2) 外部講師来訪時に課す小レポート (1～2本) (30%)
評価基準	(1) 国際協力の定義や隣接概念との相違が理解できる。 (2) 国際協力を行う動機に関する諸説を理解できる。 (3) 国際協力がその達成を目指す目的の変遷について理解できる。 (4) 日本のO D AやN G Oによる活動の特徴が理解できる。 (5) 国際協力で用いる重要な概念（「参加」「エンパワメント」等）について理解が深まる。 (6) 国際協力事業の企画や評価を行う際の手法の概要を理解できる。
テキスト	なし
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	(1) 「地域研究実習」でカンボジアスタディツアーに出かける学生にとって本講義はスタディツアーの事後学習の一部をなすものである。そのため、スタディツアーへの参加を希望している学生は本講義も履修するようにしてください。 (2) 本講義では、国際協力の現場で活動されてきた方を外部講師として招き、レクチャーを行っていただくことがある。その際は、その外部講師の方のスケジュールによってシラバスに書かれた授業の内容が前後することがあるので、あらかじめ了解しておいてください。
準備学習	外部講師による授業の際には、レポート課題を出すので、自宅で取り組み、次の授業に提出するようにしてください。
オフィスアワー等	授業後の時間を利用して質問等に対応する。また、毎回の授業終了に感想表への記入・提出をお願いするので、クラス全体にとって重要だとと思われる質問が出た際には、次の回にこれを紹介し、受講者全員にフィードバックする。
備考・メッセージ	

授業計画					
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標	
1	講義	岡島	オリエンテーション	本講義全体の学習到達目標が理解できる	
2	講義	岡島	国際協力の定義および隣接・類似概念との関係に関する講義	本講義の中心となる「国際協力」の定義や「国際貢献」などとの関係が理解できる	
3	講義	岡島	国際協力の動機に関する講義	国際協力を行う動機に関する諸説の内容が理解できる	
4	講義	岡島	国際協力の目的の変遷に関する講義（その1）	経済開発・社会開発・人間開発・人間の安全保障それぞれの違いが理解できる	
5	講義	岡島	国際協力の目的の変遷に関する講義（その2）	経済開発・社会開発・人間開発・人間の安全保障それぞれの違いが理解できる	
6	講義	岡島	国際協力のアクターに関する講義	前期に行った授業を復習しつつ、国際協力にはどのような人が関わっているのか、とりわけO D Aの特徴がより深く理解できる	
7	講義	岡島	国際協力のアクター（J I C A）に関する講義	O D Aの実施機関であるJICAの目的や組織、活動内容について、その概要が理解できる	
8	講義	岡島	国際協力で語られる重要概念－「参加」に関する講義	国際協力を理解するうえで重要な概念である「参加」の概念とその変化が理解できる	
9	講義	岡島	国際協力で語られる重要概念－「エンパワメント」に関する講義	国際協力を理解するうえで重要な概念である「エンパワメント」の概念とその変化が理解できる	

1 0	講義	岡島	国際協力で語られる重要概念―「人権」に関する講義	国際協力を理解するうえで重要な概念である「人権基盤型アプローチ」の概念と実践について理解できる		
1 1	講義	岡島	国際協力事業の企画手法 P C M に関するワークショップ（その 1）	国際協力で広く使われる事業企画手法の概要が理解できる		
1 2	講義	岡島	国際協力事業の企画手法 P C M に関するワークショップ（その 2）	国際協力で広く使われる事業企画手法の概要が理解できる		
1 3	講義	岡島	国際協力事業の企画手法 P C M に関するワークショップ（その 3）	国際協力で広く使われる事業企画手法の概要が理解できる		
1 4	講義	岡島	国際協力事業の評価に関する講義	国際協力で広くもちいられている DAC 評価 5 原則やその他の評価の動きについて、その概要が理解できる		
1 5	講義	岡島	総括（学習到達目標の確認ならびに補足的説明）	本講義全体をつうじて、学習到達目標がどの程度達成できているのか、自身で理解することができる		

授業方法					
	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)

閉じる